

# 「羽包み(はくくみ)」

第10号 平成24年12月15日発行

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪 1-12-17

TEL・FAX 0467-58-6260 [shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp](mailto:shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp)

〔郵便局での振込みは〕 ゆうちょ銀行 振替口座 00200-5-81277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

〔銀行からの振込みは〕 ゆうちょ銀行 店名：029 当座 0081277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

## 巡り合い

ホーム長 前川 礼彦

人が一生のうちで出会う人の数は、数万人とも言われます。そのうち自身の生き方や胸のうちを伝えられる相手は一体何人いるのでしょうか。

また街ですれ違う多くの人達のなか、こうして知り合うことが出来る確率は何とも奇跡的なものでしょう。

巡り合わせ…。今この時にこの人との「出逢い」がある。それは偶然のように見えてもやはり必然なのかもしれません。今出逢う必要があった。その意味をかみしめる時、つばさの家を通して出会った少年たちや支援者の方々は出逢うべくして出逢ったのだらうと思わずにはいられません。不安な表情を抱え、入居の面接でつばさの家にやって来る少年たちを前にするとき、これからこの子の人生に長く関わっていくのだらうと予感し、暮らしのなかでは互いの喜怒哀楽に心が揺れながらも相手を思い続け、そしてホームを出たあとの長い人生を繋がっていく。その中で幾度となく出てくる彼らの胸のうち。悲しみ、憂いに少しでも寄り添えるだらうか。

縁あって出逢った少年たちの人生に触れさせて頂いている。これを「支援」の一言で片づけてしまうのはあまりにおこがましい。何故なら彼らとの暮らしを通して気づかされているのは自身の心の在りようである。それは自身の今までの生き方を振り返ることに繋がり、心豊かにさせて頂いているのはこちらの方だと実感する瞬間があるのです。そして日々の暮らしで煮詰まるとき、支援をして下さる方々の想い、生き方に触れるにつれ、私は幸せにも多くの人生のモデルに支えられ、心を豊かにさせて頂いているのです。

出合いをどの様に捉えていくか。そのままやり過ごすことも出来れば、直感を信じ深く知り合っていくこともできる。相手を深く知るほど得られる喜怒哀楽は、互いの生き方を通しての物事の捉え方、人との関係の結び方を振り返り、確かな一歩を歩んでいける。

人は巡り合いのなかで生きている。つばさの家が皆さまの温かい想いと多くの出逢いにより維持をさせて頂いていること、心より御礼申し上げます。

今後とも、つばさの家を応援して頂けましたら幸いです。